特集 枕崎に未来はあるか

人口減少、少子高齢化の進行、市街地の空洞化、崩壊しつつある自治組織、厳しい財政事情など危機的状況にある枕崎市。この現状を打開するため、まずは全市民が現実を知ることが大切です。知ることによって**未来は創造できます。市民一丸となって共生協働のまちづくりを進め、明るい未来を築き上げましょう。**3回シリーズでこれからの枕崎を考えます。

進む市街地の空洞化
白点線内に
空き地　30か所
空き家　78戸
（空き店舗含む）

全線開通したＪＲ指宿枕崎線のセレモニーでにぎわう枕崎駅前（昭和38年）

第１回
枕崎の現実（いま）と向き合う
～市民一丸となり まちのにぎわいを取り戻そう

「枕崎に未来はあるか」とんでもない見出しだと感じた方も多いかもしれません。しかし、いまの枕崎市は、人口減少、進む少子高齢化や市街地の空洞化、崩壊しつつある自治組織、昨今の世界同時不況の余波を受けた長引く不景気や大変厳しい財政事情など、今まで経験したことのない危機的状況にあります。これは、本市に限ったことではなく、日本中の自治体が直面している問題で、その打開策を見い出そうと各地で様々な施策が進められています。

本市でも、この現状を打開するために、コンパクトシティや地域担当制の導入など新しい施策を推進しているところです。しかしながら、これらの施策を進めるには、まず全市民が枕崎の現実を知り、意識の共有を図ることが必要です。

そこで今回は、まちの元気のバロメーターでもある市街地商店街の現状について考えます。市街地の空洞化や消費パターンの変化で衰退しつつある商店街。その打開策を考えてみましょう。

インタビュー
枕崎商工会議所
神園幸人 会頭

まちの活性化へ向け 新たな一歩を踏み出そう

昔は、ほとんどの人が歩いて近くの商店街へ買い物に行っていました。しかし、車社会となった現代では、市外の大型店舗などで買い物を済ませてしまう人が増え、商店街は活気を失っていきました。このままでは、活気だけではなく、身近で便利な商店街そのものを失ってしまいます。すぐそこまできている超高齢化社会、その時に、歩いて買物に行ける商店がない不便な生活を想像してください。失ってから気付いても遅いのです。ただし、店側も魅力ある商店街再生のために努力しなければなりません。

昨年、ＮＰＯ法人たすけあい枕崎が駅前通りの空き店舗を活用してオープンした「ふれあいサロン枕崎」は、地域住民の憩の場となり、訪れた人たちの笑顔で溢れています。

また、今年６月には、商工観光活性化推進委員会を立ち上げました。これは、市内の各種団体、業界の方々を中心に、枕崎の魅力的なところや活用できるものなどをとりまとめ、観光面からも、まちの活性化策を探ろうというものです。現在、滞在・体験型観光の推進や新しい観光ルートづくりなどに取り組んでいるところです。

商店街の活性化はもとより、まちの活性化には、住民全員が危機感を共有し、同じ目標に向かい動いていくことが大切です。それが大きな力を生み出すのです。

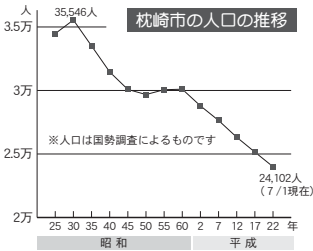
商店街のシャッター通りは何を語る

みなさんは市内の商店街で買い物をしていますか？

現在、商店街は多くの店舗が店を閉めてシャッターを下ろした状態、いわゆるシャッター通りとなりつつあります。

昭和30年をピークに、本市の人口は減少の一途をたどっています（左グラフ「人口の推移」を参照）。昭和30年といえば、高度経済成長期の始まりで、枕崎も活気づき、商店街は多くの人やモノであふれていました。

しかし、現在、人口の急激な減少や少子高齢化、更には車社会の到来、県内各地に大規模店が進出する中、商店街の各店舗では、需要の低迷や後継者不足など様々な問題に直面しています。

こうした中、今年7月から、市内に11ある通り会が「一丸となり商店街を、枕崎を活性化させよう」と、通り会連絡会の設立に向けて会合を重ねています。発起人の加藤隆一さん（旭通り会会長）は「何かを起こさないと商店街は衰退する一方です。まずは各通り会どうしが団結し、意見を出し合うことが先決。先日の会では、中心的な商店街である駅前通りが活性化することで、周りにも人の流れができ、にぎやかになるのではないかという意見が多く出ています」と話しています。

昔から地域住民が集まり、地域コミュニティの大事な場所である商店街。活気あるまちづくりに元気な商店街は絶対に欠かせない存在です。では、商店街の多くが集積する中心市街地の現状について、みなさんはどのように感じていますか。